

青いケシの新種を求めて

吉田外司夫

私は植物写真家です。1984年以降、生物多様性のホットスポットとして知られるシノヒマラヤ（中国南西部からヒマラヤにかけての山岳地帯）の植物に魅せられて足しげく通うようになりました。最近ではシノヒマラヤを象徴する青いケシ（メコノプシス属植物）の撮影に集中しています。その私がメコノプシスの新種を探索して自ら論文で発表するようになったのは、自分の中では必然的な流れでした。

美しい写真というのは考えて撮るものではありません。考えごとは感性を鈍らせます。カメラのファインダーをのぞき、何も考えずに自分の眼が「ああ、いいな！」と思った瞬間にシャッターを切ります。最適な視点の置き方や構図、露光の調整は考えなくても瞬間的にできるよう、体で覚えておきます。

撮影した写真の中からすごくよいものを見極めるには、大きく引き伸ばしてプリントし、壁に貼って何度も見直すのがもっとも確実な方法です。何日たっても、何か月たっても見飽きることがなく、見るたびに何かしら感動があり、新たな発見が触発されるというのが、自分にとって最高の写真です。小さなフィルムをルーペで見たり、デジタル写真をディスプレイやスクリーンに表示させたりして写真の良し悪しを判断するのは、ある程度はできますが、それも経験と熟練が必要です。ディスプレイやスクリーンに表示して写真を判断するときには、表示装置の状態やそのときの電圧などで色や明るさが変化するということに注意する必要があります。撮るのに苦労したとかいう邪念を取り払い、自分の眼だけを信じて自分がよいと感ずる写真はたいていの場合、ほかの人が見てもよい写真です。すごくよい写真というのはかんたんに撮れることもあります。多くの場合「もっとよい場面を、もっとよい瞬間を」とファインダーをのぞきながら追い求めた果てに得られます。

自然写真では広い大地の全体がスタジオであり、光源は太陽だけです。撮影する場面や光を自分で創り出すことはできません。植物の形や色彩は周囲の地形や気象、卓越風の向き、世代を重ねて生き続けた植物の自然史によって決まり、取り巻く環境や太陽光と見えない糸で緊密に結ばれています。熱帯雨林の植物にはある程度自由に成長するゆとりがあるかもしれませんが、厳しい自然環境に生きる植物にはそのようなゆとりはありません。私たちが野生の花を見て美しいと思うのは、植物が周囲の環境と見えない糸で緊密に結ばれていて、そこに神の仕業としか思えない絶妙の調和を感ずるからでしょう。

高山の厳しい環境に生える植物は矮性化して花が相対的に大きくなり、日射量が多いので花の色が鮮やかになり、またダイナミックな地形を背景に取り入れることもで

きるので、美しい花の写真を撮るには最高の環境にあります。ヒマラヤ主脈では標高5,500 ㍎にいたるまで植物がふつうに生えます。標高4,000 ㍎を超えると楽に呼吸するには酸素が少なくなり、尾根筋では気象がめまぐるしく変化し、風当たりが強くなります。酸素欠乏で思考力が弱まり、身動きすることもつらくなります。そのような場所に腰を下ろし、寝転がって小さな植物をファインダーでのぞき、刻々と変化する光や霧に対応するためにカメラの三脚をしっかりと固定することもできず、もがきながら最高の写真を追い求めていると、気が遠くなることがあります。

今の私には体力的に無理ですが、若いころには標高5,000 ㍎を超える高山でファインダーをのぞきながら最高にすばらしい一瞬を求めている、眼が体から分離するような感覚を味わったことが何度かありました。頭を地面に近づけ、光が絶妙の状態の中で風が止む一瞬を息を殺して待っていると、心臓の鼓動が半鐘のようにガンガン鳴り響き、体は「もう止めよう」と危険信号を発し続けます。しかし眼だけはガラガラとして「もっと、もっと」と体を急ぎ立てます。そしてついに神様が降り立ったような光景をファインダーの中に捉えることができたとき、体はくたびれ果ててつらい思いをしていても眼はうっとり恍惚感に浸るということがありました。そういうときには、眼は自分の体にあっても理性や思考をつかさどる脳ではコントロールできない別の生き物のように感じられました。

花の美しさを表現するのは、その植物の個性を表現することと切り離すことができません。人物画を見ると、私たちは描かれた人物の民族や職業、年齢、経験、性格、感情などを思い浮かべながら鑑賞します。描かれた人物について知ると、その絵に対する理解や愛着が深まります。画家はそれらのことが絵から滲み出るように描きます。植物の写真も同じですが、植物の個性はまず種の特徴にあります。植物の多様性が認識され、その中で種が認識されるようになると、植物を多面的にかつ深く観賞できるようになります。種の特徴が理解されてそれを表現しようとする、何度見ても飽きない美しい写真が撮れるようになります。

植物のもっとも美しい姿を追い求めているうちに、私は花を主人公としながらも植物を取り巻く環境の一部を背景に取り込むという撮影のしかたに自然に行きつきました。そして生えている場所や取り巻く環境にも種の特徴が表れていることに気づきました。

私は今まで植物学を体系的に勉強したことはありません。しかし植物の種の特徴を知るには過去に出された植物誌や論文を読まなければならず、その必要に迫られて日本語や英語、ラテン語の用語を一つずつ覚えていきました。また論文の書き方も少しわかるようになりました。何度も自生地でメコノプシスを撮影しながら観察するうちに、乾燥標本では得られない生きた植物の立体的な形や花の色、乾燥すると脱落した

り干からびたりしやすい花卉や雄しべの実際の数と形、そして生育環境などといった特徴が少しずつわかるようになり、植物誌の記載に不正確な部分や間違ったことが書かれていることがあることを知りました。ときには過去に発表されたどの種にも当てはまらないもの、つまり新種を認識するようにもなりました。

また中国科学院昆明植物研究所の標本庫に出入りし、標本ラベルに漢字で走り書きされた、欧米の専門家が読めないメコノプシスの採集地情報にも接することができました。インターネットでグーグル・アースを駆使して立体地形を知り、どのあたりにメコノプシスが生え、そこには道路や山道が通じているかもある程度わかるようになりました。また私たちの青いケシ研究会に参加する中国人を含む会員から送られてくるメコノプシスの写真や情報に接し、その中から新種らしきものを発見するチャンスにも恵まれました。

このようにして私はつぎつぎにメコノプシスの新種を発見し、現地の共同研究者や名の知れた専門家とともに新種論文を書き、それらを日本や中国、イギリスの専門誌に投稿して発表してきました。私が今までに発見して論文で発表したメコノプシスの新種や新変種は以下のとおりです。

<2009年発表>

Meconopsis bijiangensis H. Ohba & T. Yoshida (分布：雲南省北西部)

Meconopsis castanea H. Ohba & T. Yoshida (分布：雲南省北西部とミャンマー北東部)

<2010年発表>

Meconopsis heterandra T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：四川省南西部)

Meconopsis pulchella T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：四川省南西部)

<2011年発表>

Meconopsis balangensis T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：四川省西部)

Meconopsis balangensis var. *atra* T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：四川省西部)

<2012年発表>

Meconopsis muscicola T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：雲南省北西部)

Meconopsis yaoshanensis T. Yoshida, H. Sun & D.E. Boufford (分布：雲南省北西部)

Meconopsis bhutanica T. Yoshida & Grey-Wilson (分布：ブータン北西部)

Meconopsis exilis T. Yoshida, H. Sun & Grey-Wilson (分布：雲南省北西部)

Meconopsis lamjungensis T. Yoshida, H. Sun & Grey-Wilson (分布：ネパール中部)

Meconopsis bulbilifera T. Yoshida, H. Sun & Grey-Wilson (分布：シッキム西部～ネパール中部)

<2016 年発表>

Meconopsis elongata T. Yoshida, R. Yangzom & D.G. Long (分布：ブータン西部)

Meconopsis gakyidiana T. Yoshida, R. Yangzom & D.G. Long (分布：ブータン東部、インド北西部、チベット南部)

Meconopsis merakensis T. Yoshida, R. Yangzom & D.G. Long (分布：ブータン東部、インド北西部)

Meconopsis merakensis var. *albolutea* T. Yoshida, R. Yangzom & D.G. Long (分布：ブータン東部、インド北西部)

過去に発表された種を再定義したものに以下のようなものがあります。

Meconopsis discigera Prain

Meconopsis lyrata sensu Taylor

Meconopsis compta Prain

Meconopsis polygonoides (Prain) Prain

Meconopsis wumungensis K.M. Feng ex C.Y. Wu

メコノプシス以外では 2017 年の春にショウガ科の以下の種を発表しました。これは 2014 年の青いケシ研究会とブータン農林省生物多様性センターとの青いケシ共同調査の際に発見したものです。

Roscoea megalantha T. Yoshida, R. Yangzom & M.F. Neuman (分布：ブータン東部、インド北西部)

イギリスのグレイ・ウィルソン氏がすべてのメコノプシス属植物を集めて分類や記載を見直した『メコノプシス属』(2014 年)には、私が発表した新種を含めて全部で 79 種が記載されています。それ以降、私は 4 つの新種を発表し、さらに 7 つの新種といくつかの新変種を近いうちに発表する予定です。私の最終目的はメコノプシスの新種を発見して論文で発表することではなく、メコノプシスの多様性と現在も続いている種分化を美しく表現することにあります。グレイ・ウィルソン氏の『メコノプシス属』の後に私が発表した、また発表する予定の新種も含め、メコノプシスの多様性を表現した美しい本を協力者とともに出版することが私の夢です。

参照：<https://www.sinohimalaya.com>